

平成22年11月1日発行

会員各位

協会だよりー215(11月号)

JCRA (Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

<トピックス>

- 創立35周年記念祝賀会が近づきました。平成22年11月24日(水)18時(受付17時30分より)。於：如水会館・富士の間にて開催。前日は勤労感謝の日で祝日ですが、お忘れなくお集まりください。



晩秋の清澄庭園(メトロ清澄白河下車)

- 一. 協会よりのお知らせ
【実施済事項】
- 二. 新規会員の紹介
【予定事項】
(株)エコ・マテリアル殿
- 三. 新聞記事紹介(日刊工業新聞より)
- 四. 寄贈文献
- 五. 事務局より(十一月度の予定)
- 六. 【雑学】発祥の地(宣子掃藍の地)Ⅴ

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① [協会だよりー214 \(10月号\)](#) をメール&郵便で送信 (9/30)
- ② 第22回 JSCRA 会
日時：平成22年10月5日(火)
場所：真名CC 真名コース
〒297-0077 千葉県茂原市真名 1744
幹事：川原晋氏(日揮化学株OB)、尾沼涼氏(ジョンソン・マッセイ・ジャパン・インク)
参加者：14名(現役6名、OB8名)
- ③ 平成22年度第五回運営委員会
日時：10月15日(金) 15:30~17:00
場所：堺化学工業株会議室
議題：第208回月例会(講演会)の検討、創立記念祝賀会準備委員会業務。

[予定事項]

- ① 平成22年度第六回運営委員会
日時：11月19日(金) 15:30~17:00
場所：堺化学工業㈱会議室
議題：第208回月例会(講演会)の詰め、最終創立記念祝賀会準委員会業務。
- ② 創立35周年記念祝賀会
日時：11月24日(水) 18:00~19:30
場所：如水会館・富士の間(3F)

2. 新規会員の紹介

(株)エコ・マテリアル殿が11月1日付で入会されました。以下にエコ・マテリアル殿の簡単な紹介をいたします。会員各位よりよろしくお願いいたします。

【株式会社エコ・マテリアル】
 住 所：〒370-33447 群馬県高崎市中室田町4-2-1
 Tel・Fax 027-386-2628
 代 表：代表取締役 中澤 孝
 設 立：平成20年4月14日
 資本金：3000千円
 担当者：青木 隆 (神奈川営業所長)
 主なる事業内容：非鉄金属、レアメタル、貴金属の精錬。
 資源化事業内要：レアメタルの精錬(電気分解、洗浄、回収)
 備 考：群馬県一社一技術に認定(電気分解精錬法)(2009年12月4日)
 [URL] <http://www.eco-material-metal.jp/>

3. 新聞記事紹介(日刊工業新聞より)

2010年(平成22年)10月1日 金曜日の12ページに特集された環境保全・生産技術を担う 触媒工業の一部に、僅かですが協会の記事が記載されましたのでご紹介いたします。

ニッケルやモリブデンなど希少金属などが主要な成分

触媒工業において、触媒工業協会が新品の製造という動脈産業を代表するならば、使用済み触媒を資源として有効活用する静脈産業を取りまとめているのが触媒資源化協会だ。触媒は「化学反応を促進させ、自らは反応の前後で変化しない」と教わるが、現実には生産プロセスや自動車排ガス処理で使用を重ねると汚れが付着するなど、劣化は避けられない。触媒には白金やパラジウムに代表される貴金属やニッケル、モリブデンといった希少金属などが主要な成分として用いられている。使用済み触媒の資源としての有用性はますます高まっている。

触媒資源化協会は1975年、使用済み触媒回収に携わる16社によって「使用済み触媒資源化懇談会」として発足。77年に使用済み触媒資源化協会と改称、08年から現在の名称で活動している。会員は37社。

触媒資源化協会の主な活動は、使用済み触媒のほか、宝飾品や電子基板など非触媒からの有価金属の回収。

触媒の再資源化

09年度、347億円分の資源を触媒から回収

取・資源化実績の取りまとめ。回収資源の種類によって貴金属、ニッケル・コバルト、モリブデン・バナジウム・タンゲステン、レアメタル、アルミナの5分野に分け、それぞれ触媒・非触媒からの資源化実績を調査・分析している。

09年度の場合、触媒からの資源化実績は貴金属が48億2990万円、モリブデン・バナジウム・タンゲステンが1433億4000万円など。全体では347億円の資源が触媒から回収された。非触媒を含む総資源化実績は貴金属が394億1978万円、レアメタルが204億129万円など。

触媒に用いられる金属資源は、反応効率や製品への加工性などの点で、簡単には代替できないものが多い。一方、希少金属の安定確保は触媒に限らず、産業界にとってきわめて重要なテーマだ。触媒やその他の使用済み製品からの希少金属の回収・有効利用に対する社会的要請は今後ますます強まるだろう。

4. 寄贈文献

- focus NEDO 2010 No. 39
NEDO 30年の歩み
- 平成22年度 資源環境技術・システム表彰 表彰概要 (CJC)

5. 事務局より (11 月度の予定)

曜日	月	火	水	木	金	土
1 週	1	2	3	4	5	6
	○	○	×	×	○	×
2 週	8	9	10	11	12	13
	×	○	×	×	○	×
3 週	15	16	17	18	19	20
	×	○	×	×	○	○
4 週	22	23	24	25	26	27
	△	勤労感謝の日	創立祝賀会	×	○	×
5 週	29	30	12/1	12/2	12/3	12/4
	×	○	○	×	○	×

事務局延べ出勤予定：11日 (○；終日、△；半日、×は休日)。

6. 【雑学】発祥の地(官学揺籃の地)V

今まで、中央区を中心に私学発祥之地を紹介してきました。今回は官学、現在の一橋大学、東京大学の発祥之地を紹介いたします。

【一橋大学】

一橋大学は1875(明治8)年 現在の中央区銀座6丁目に森有礼が開設した商法講習所が起源です。森有礼から渋沢榮一が経営を引き継ぎ、東京商工会議所の管理下に運営されました。その後名称が国立東京商業学校を経て、1886(明治18)年、神田一ツ橋に移転し東京高等商業学校に昇格、1915(大正9)年、東京商科大学に昇格しました。関東大震災による被害甚大で、種々の検討結果、現在立地する国立に移転し、戦後 社会学系総合大学として一橋大学となりました。一橋大学の名称は長らく神田一ツ橋に立地していたことに寄るものでしょう。一ツ橋の旧校地跡は、現在、学術総合センター、如水会館、共立講堂となっています。



【碑文】

商法講習所

明治8年(1875年)この地に
商法講習所を開設す
これ現在の一橋大学の発端なり
昭和50年9月24日
百年記念に当り
一橋大学之を建つ

石碑は銀座六丁目、松坂屋銀座店前の歩道と車道の境目の植え込みに設置されています。

【東京大学】

我国最初の大学である東京大学の発祥は、東京都千代田区神田錦町3丁目、現在の学士会館の場所にあった東京開成学校を開祖としています。現在の東京大学になるまで、最初の文理系、医系の帝国大学から、後に工部大学校、東京農林学校を併合し工科大学、農科大学を含む総合大学となりました。

石碑も学士会館前に設置されており、経緯については、碑文に細かく歴史が記載されていますので、説明はそちらをお読みください。



我が国の大学発祥地(東京大学発祥の地)

当学士会館の現在の所在地は我が国の大学発祥地である。すなわち、明治10年(1877)4月12日に神田錦町3丁目に在った東京開成学校と神田和泉町から本郷元富士町に移転していた東京医学校が合併し、東京大学が創立された。

創立当初は法学部・理学部・文学部・医学部の4学部を持って編成され法学部・理学部・文学部の校舎は神田錦町3丁目に設けられていた。

明治18年(1885)法学部には文学部中の政治学及び理財学科が移され法政学部と改称され、また理学部の一部を分割した工芸学部が置かれた。このようにして東京大学は徐々に充実去れ、明治18年までに本郷への移転を完了した。したがって、この地が我が国の大学発祥地すなわち東京大学発祥の地ということになる。

明治19年3月 東京大学は帝国大学と改称され、そのとき、それまで独立していた工部大学校と工芸学部が合併され工科大学となり、その後 東京農林学校が農科大学として加えられ、法・医・工・文・理・農の6分科大学と大学院よりなる総合大学が生まれ帝国大学と名付けられた。

更に、明治30年(1897)には 京都帝国大学の設立に伴い、東京帝国大学と改称された。

爾後 明治40年に東北帝国大学、明治44年に九州帝国大学、大正7年に北海道帝国大学、昭和6年に大阪帝国大学、昭和14年に名古屋帝国大学が設立された他、戦後なくなったが大正13年に京城帝国大学、昭和3年に台北帝国大学がそれぞれ設立された。

昭和22年(1947)に到って、右の7帝国大学はそれぞれ東京大学、京都大学、東北大学、九州大学、北海道大学、大阪大学、名古屋大学と呼称が変更された。

明治19年7月創立の学士会は以上の9大学の卒業生等を以って組織され、その事業の一つとして、当学士会館を建設し、その経営に当たっている。

平成3年(1991年)11月 学士会

【文責：専務理事】